

防除情報(病害虫情報 号外 第1号)

2019年4月26日

神奈川県農業技術センター

2019年度イネ縞葉枯病の発生予想と防除について

2019年1月8日～2月15日に県内16地点の水田でヒメビウンカ越冬世代幼虫を採集し、イネ縞葉枯病ウイルス(以下「RSV」)の保毒虫率を調査した結果、16地点すべてでRSV保毒虫を確認したものの、平均保毒虫率は前年を下回る2.4%でした(図1)。

2019年1月8日～2月15日に県内15地点の水田でヒメビウンカの越冬世代虫密度を吹き出し法により調査した結果、平均密度は54.1頭/9㎡であり、平年(39.1頭/9㎡)比「やや多」でした(図1)。

ヒメビウンカの越冬世代密度は平年比「やや多」であるものの、RSV保毒虫率が過去10年平均(2.9%)を下回ったことから、本年の水稲作本田におけるイネ縞葉枯病発生量は「平年並」を予想しています。

[防除]

水稲初期生育期におけるヒメビウンカの水田飛来によるRSV感染と水田内での感染拡大を抑制するため、ウンカ類に効果のある育苗箱施薬剤(殺虫剤)を施用してください。さらに、薬剤選択に際しては、ツマグロヨコバイの越冬数が平年より多かったため、本虫にも適用のある薬剤を優先してください。

田植前および作期を通して、RSVの寄主植物やウンカ類生息場所となり得る水田周辺の雑草の除草を徹底してください。また、本田防除は、育苗箱施薬剤の効果が低下する時期に、農業技術センターの病害虫情報を参考にヒメビウンカの発生状況を把握し、適期に防除を行ってください。

[防除薬剤]

【育苗箱施薬剤】

薬剤名	使用時期	使用回数	使用量	ツマグロヨコバイ適用
アドマイヤーCR箱粒剤	は種時(覆土前)～移植当日	1回	50g/箱	あり
グランドオンコル粒剤	移植3日前～移植当日	1回	50g/箱	あり
ツインターボフェルテラ箱粒剤	は種時(覆土前)～移植当日	1回	50g/箱	あり
プリンス粒剤	は種時(覆土前)～移植当日	1回	50g/箱	なし

【本田施薬剤】

薬剤名	使用時期	使用回数	使用量	ツマグロヨコバイ適用
アルバリン粒剤またはスタークル粒剤	収穫7日前まで	3回	3kg/10a	あり
トレボン粒剤	収穫21日前まで	3回	2～3kg/10a	あり

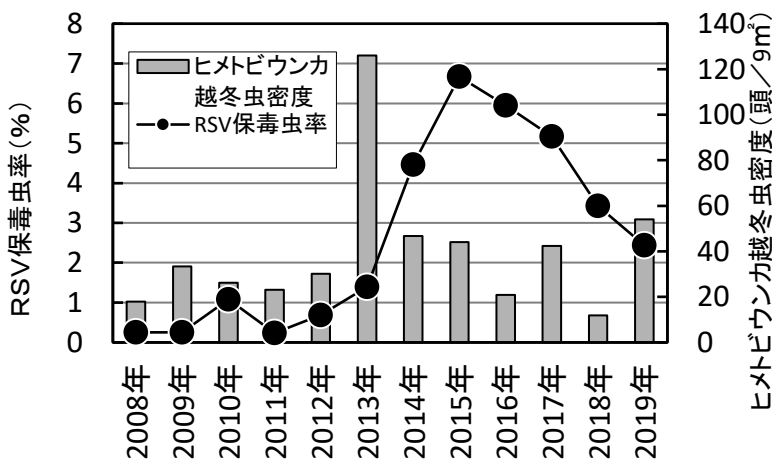


図1 ヒメビウンカ越冬虫におけるRSV保毒虫率と密度の推移

病害虫防除部 TEL0463-58-0333

インターネット

<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/cf7/cnt/f450002/>

○農業使用の際は、必ずラベルの記載事項を確認し、使用基準を遵守するとともに飛散防止に努めましょう。